

EX LIBRIS

harano

原野コレクションI

本に貼られた版画

—蔵書票の美—

目次

| | |
|--|-----|
| ごあいさつ | 2 |
| 河上繁樹 | |
| 「原野コレクションⅠ 本に貼られた版画—蔵書票の美—」展について | 5 |
| 内田市五郎 | |
| 蔵書票とは | 6 |
| 西野裕子 | |
| 熱き巨人—原野賢吉 | 13 |
| 西野裕子 | |
| 図版 Ⅰ部 原野賢吉と蔵書票作家 | 17 |
| Ⅱ部 蝶の蔵書票 | 69 |
| 作品リスト／作家プロフィール | 98 |
| 版式の説明 | 108 |
| 参考文献一覧 | 110 |

ごあいさつ

関西学院大学博物館開設準備室長 河上繁樹

関西学院大学は2014年に創立125周年を迎えます。これを記念して、関学のシンボルである時計台を大学博物館として開館する計画が進んでいます。125年に及ぼんとする歴史のなかで、関西学院は多彩な研究教育の成果を生んできました。その成果を活かしながら、未来へ飛躍するステージの一つとして、知と感性が融合する新たな博物館像が求められています。

博物館が開館するまでにはさまざまな準備をしていかなければなりません。その第一弾として、原野賢吉氏より関西学院大学へご寄贈いただいた蔵書票の展示会を開催いたします。書物を大切にする愛蔵家たちは、所蔵する本に特別の愛着を込めて蔵書票を貼りました。蔵書票は単に本の所有者を明示するものではなく、版画によって美しい絵や図柄が描かれています。「紙の宝石」と喩えられるほど美しく、芸術性の高い蔵書票が愛好家によって作り出されています。本に貼られた版画＝蔵書票の世界をお楽しみ下さい。

作品リスト／作家プロフィール

I部 原野賢吉と蔵書票作家

青木薔

1. 浅草・雷門 板目木版 10.0×8.7
2. 顔 板目木版 6.0×7.4
3. 涼風佳人 板目木版 9.8×8.0
4. 樹 板目木版 12.6×8.9

1921年東京都に生まれる。美術研究所などで素描、油絵を研鑽。1970年代に木版画制作を始める。出品作品の中には団扇の骨を立体的に仕上げたものや、二人の顔で一つの顔を表すもの、落葉で票主の名前「HARANO」を隠し文字風にするものなど凝ったデザインの蔵書票が見られる。1980年、1981年日仏現代美術展入選。

アルフォンス井上

5. 蛇 銅版 14.9×11.5

1941年兵庫県に生まれる。フランス文学者生田耕作訳本の挿絵や装幀の仕事をする傍ら蔵書票の制作を始め、雅号「アルフォンス」も生田氏が命名。制作当初は銅版画家山本六三氏と互いの作品を交換するなど気楽に楽しんだ。制作過程で時間をかけて作品と向き合うので、注文が増えた今日では完成まで数年を要することもあるが、大きめの紙に刷られた典雅で官能的、或は幻想的で怪異と評される作品は観賞用として楽しまれている。

伊藤純夫

6. キリギリス 型染 4.0×8.7

1951年神奈川県に生まれる。1975年多摩美術大学染織デザイン科卒業、1977年同大学院美術研究課程修了。古代織布を染める型染作家として活躍する傍ら本の装幀や蔵書票の制作を手掛ける。身近な自然の形の美しさをテーマにした作風は布だけでなく、作品番号6キリギリスにもみられる。

伊藤卓美

7. は 埼玉越谷天狗の起上り 板目木版 9.1×6.7
8. 雪ん子 板目木版 12.0×7.5

1946年宮城県に生まれる。高校時代に木版年賀状を作ったこともあるが、一度は画家である父親と別の道を選ぶ。1976年オイルショックの影響でサラリーマンから版画家に転身。1979年日本版画会への出品を契機に原野氏の勧めで蔵書票制作を始める。宮沢賢治が好きで民俗芸能など郷土色の強い作品を制作する。作品番号7は票主好みの郷土玩具を題材にした『木版いろは書票集』(1986)収録。1980年日本版画会賞、1988年文部大臣奨励賞。

井上勝江

9. 椿華 板目木版 10.2×8.2

1932年新潟県に生まれる。山形立石寺中性院屏風、町田円城寺襖絵、ポスターなどの制作にも携わり、幅広い美術活動を繰り広げる。「黒、色の出発であり、また終わりでもある、追いつける白黒の世界。」という言葉を残しており、白黒木版一筋で制作活動を続ける。1961年三軌会和巧賞。

岩佐なを

10. 犬 銅版 9.6×7.0

1954年東京都に生まれる。竹川画廊、檜画廊等で個展を開催。詩画集の制作にも取り組む。作品番号10は『書票詩集「博物幻想曲」』に収録され、「臍の上で両掌の指を組んで眠ると夢に前世のおのれが映ると云う 犬ころだったわたくしが今は酉でとしおとことは」という詩が添えられる。1984年版画ミニアチュール・コンクール最優秀賞、1991年国際書票コンペティション協会長特別賞。

植木須美子

11. 瞽女 板目木版 14.4×8.5

1921年新潟県に生まれる。板目木版を用いて、凧や役者絵など和風モチーフの蔵書票を多数制作する。1962年新潟女流版画協会を創立、1970年新潟県美術展県展賞受賞。

大内香峰

12. 雪 木口木版 10.9×8.0
13. 馬櫓と大雪山 木口木版 8.8×10.2
14. 雪割草 木口木版 7.0×7.0
- 14-a1. 雪割草 版木 5.0×5.0×2.0
- 14-a2. 雪割草 版木 5.0×5.0×2.0

1940年北海道に生まれる。墨絵から絵画の世界に入り、独学で木口木版を習得。1980年から蔵書票を制作し、木口木版多色摺りという新たな技法を編み出す。主版の墨の部分に木口木版を、色彩部分に板目木版を用いるもので、作品番号165が収録される『心窓図書マーク詩画集』(1995)にはこの技法が使用される。このほか手描きの蔵書票も制作。1979年第15回亜細亜現代美術展理事長賞、1982年第48回旺玄会展新人賞。

大久保坦

15. 蘭 板目木版 12.3×9.0
16. 延齡草 板目木版 12.0×9.2

1924年東京都に生まれる。明治期から昭和期にかけてリトグラフ画家として活躍した織田一磨氏に師事。自身も初期はリトグラフ作品を30種ほど制作しており、その後木版画に移行した。1964年日版会版画展日版会賞。

大島龍

- 17-1. コアカゲラ 板目木版 7.1×7.5
- 17-2. コアカゲラ 板目木版 7.1×7.5

1946年北海道に生まれる。石狩で版画家として活躍する。作品番号17が収録される『北の鳥のいる書票集』

は、北海道の鳥をモチーフにして作られている。その大半は自らが住む石狩で見られる鳥である。石狩市民図書館エントランスホールには版画「光、風、水の大地いしかり」が展示される。1990年北海道MOA賞。

岡村吉右衛門

18. 漢灰陶俑 型染 9.0×7.6

1916年鳥取県に生まれる。柳宗悦、芹沢銈介両氏に師事、民芸運動に参加する。染色家として著作も多い。1960年頃から蔵書票を制作。蔵書票について、「愛蔵の標として蔵書票と作者の話合いによる、見返しや奥書きに貼れるような可愛い大きさの世界、協同とか和みや楽しみを持つものが本筋と思えます。単に、作家が肩胛を張った一方通行のものではなく、従的な要素があって、然も玩弄物的でないもの、でありたい」と語っている。

小川吾銭

19. 船 板目木版 6.0×8.5

梶山俊夫

20. カミキリ虫 木版 7.9×7.9

1935年東京都に生まれる。抽象画家として出発するが、1967年に絵本の仕事を始める。日本の自然や風土、民話を題材に飄々とした画風の絵本を描き、数々の賞を受賞する。その画風は蔵書票にも通じ、作品番号20が収録される『梶山俊夫書票作品残夢傀儡帖』には絵本のような蔵書票が並ぶ。タイル壁画やガラス絵も制作し、幅広い活動を繰り広げる。

風神庸人

21. 仏像 型染 8.5×7.8

型染作家。

加藤武夫

22. こけし 板目木版 10.1×6.7

23. こけし 板目木版 7.7×7.5

1930年青森県に生まれる。佐藤米次郎氏に師事。1955年佐藤氏とともに青森版画会を設立、「青森版画」を刊行する。色使いに対する意識が高く、2007年に開催された展覧会「加藤武夫展-彩りの版画-」では、「多色木版画作品の色合いはオリジナリティにあふれ、あたかかく、時には華麗に表現したもの」と紹介される。自身も「6版～8版程度の版数色数の重ね摺りによる効果を楽しみ、創作の喜びを得ていきたい」と語る。

金子益行

24. 顔 板目木版 8.9×7.5

版画家。

蒲地清爾

25. 骸骨と裸婦 銅版 15.2×11.5

26. 骸骨と裸婦 銅版 17.0×14.6

27. 骸骨と裸婦 木口木版 15.0×11.5

28. 蛸 木口木版 15.2×11.7

1948年佐賀県に生まれる。1971年日本美術家連盟工房で銅版画制作を始める。一見グロテスクな印象を与える作品は、18歳で経験した生死を彷徨う大事故を通して芽生えた人生の無常観、生と死をテーマにしており、裸婦と骸骨はそれを具象化したものである。蔵書票も額縁に入れる作品と同じく後世まで残る作品として、決して手を抜かず緻密な描線を見せる。1978年日本版画協会準会員最優秀賞、以後多数受賞。

川田喜一郎

29. 雪晴れ 孔版 10.7×8.0

30. 光と影 孔版 10.9×8.7

1922年兵庫県に生まれる。1953年より若山八十氏、水谷清照、嘉部弘の三氏から孔版の指導を受ける。1977年には「やまと豆本」第1集を発刊する。この豆本の読者で蔵書票蒐集家でもあった坂本一敏氏の誘いにより蔵書票の世界に足を踏み入れる。その後、小塚孝一郎氏の助言を受け、本格的に蔵書票制作を開始。世界書票会議などで孔版の実演を行い、技法の普及にも取り組んだ。

神崎温順

31. あしずり岬 型染 10.0×7.0

1932年旧朝鮮鎮海に生まれる。1945年終戦により引き揚げる。1950年京友禅重要無形文化財である田畑喜八氏に師事。1955年からは天理教教会本部御神面制作所にて素材研究担当の制作助手を務め、全国の手漉き和紙産地を巡る。自ら手漉き和紙工芸品の制作も行うが、1975年から型染絵の制作に専念する。

櫛淵正

32. 相合傘 銅版手彩 13.0×11.6

作品番号32は原野氏の蔵書票第1号である。原野氏は『TRCほんわかだよりNo.140』(1999年)で本作品を紹介し、「蔵書票としては実にユニークな図柄で、その後或る程度の数の自票及び恵贈票を持つようになったが、このような絵柄は遂に皆無であった。(中略)数年後残り少なくなってきたので増刷をお願いしようと思い合わせをしたが、今は版画から手を引き、原版も紛失とのことであった。」と本作品への愛着を語っている。

熊愛儀

33. 建物 銅版 10.2×9.8

香港に生まれる。十代で絵を描き始め、その後銅版画を始める。日本だけでなく西欧のコレクターからも注文を受ける。東洋的な主題を銅版で表す作家として注目される。愛称のMalouは英国領時代に使っていたMaria Luigiという名前の最初の音節をとったもの。2007年中国全国蔵書票芸術展最高栄誉賞、ルーミア国際版画ピエンナーレ大賞。

栗田政裕

34. 裸婦と百合 木口木版 12.9×16.3
35. 手児奈靈堂 板目木版 9.2×10.3
36. 十二支犬張子 板目木版 7.4×9.2
37. 仮面 板目木版 13.9×10.2
38. GERMANY 木口木版 12.0×7.1
39. 二重橋 木口木版 8.4×12.4
40. CHINA 木口木版 11.7×7.5
41. 駒形橋 木口木版 7.5×10.8

1952年茨城県に生まれる。美術教師を目指した大学時代に板目木版に興味を持ち、創形美術学校に入学、木口木版に出会う。蔵書票作りの醍醐味を票主との繋がりや語り、花のシリーズ(作品番号34)の画題は票主が提案した。思いもよらぬ画題で苦しむこともあるが、希望の作品が出来上がると嬉しいという。本シリーズでは色彩木口木版に挑戦している。1977年日本版画協会新人賞、1982年日本版画協会50回記念賞。

見目陽一

42. 地藏 木口木版 10.0×7.1

1949年栃木県に生まれる。新道繁、金子徳衛両氏に師事。山村の豊かな緑と清流に囲まれて育ち、自然に対し強い関心を抱く。自然との共存をテーマとし、その興味の対象は自然の中に息づく生物にとどまらず、野山に佇む野仏にも及ぶ。下野新聞社で1997年1998年に「しもつけの野仏」を連載。1981年第31回に本版画院展新人賞、ニュートン賞。

小島憲次郎

43. 梅に竹 型染 6.0×5.4
44. 魔除け 型染 6.2×5.0
45. 飾り 型染 5.1×6.2
46. 魚 型染 5.0×6.4
47. 釜 型染 6.0×4.7
48. 壺 型染 5.2×5.9
49. 票主名 型染 6.1×5.1
50. 票主名 型染 5.2×6.2
51. 票主名 型染 5.8×4.8
52. 僧 型染 5.1×6.2
53. 灯 型染 4.8×6.4

1912年東京都に生まれる。民芸運動の代表的な作家として型染絵の分野で活躍した芹沢銈介氏に1942年から師事。日本を代表する型染絵作家として活躍する。いずれも小さな画面に型染で絵を表す蔵書票を制作している。1943年文展、1946年国画会入選。

斎藤修

54. 木偶人形 木口木版 9.6×8.8

1946年島根県に生まれる。1973年半年間のメキシコ放浪でマヤ遺跡や1930年代の壁画を見て巡る。1977年から独学で木口木版を学び、地球的な時間を鉱物結晶と宇宙空間を用いて表すことをテーマとしてきた。一方で植物や虫、文楽人形を画題とした作品にも取り組む。作品番号54は文楽人形を主題としたシリーズの一つ。1985年第5回カダケス国際ミニプリント展大

賞、1994年第9回ソウル国際版画ビエンナーレ優秀賞。

佐藤守行

55. 裸婦 銅版 13.0×10.3

銅版画家。「グラジオラス」などの版画集を刊行する。

佐藤米次郎

56. 竹 板目木版 9.0×10.5
57. 古玩・布袋図 板目木版 8.5×6.6

1915年青森県に生まれる。旧制中学在学時から平塚運一、棟方志功、今純三の三氏に師事。1932年同窓関野準一郎らとともに青森創作版画研究会夢人社を興し、版画雑誌『彫刻刀』を発行。1929年日本最初の蔵書票研究者として知られる斎藤昌三氏の『蔵書票の話』を読み、蔵書票と出会う。1988年第2回志茂賞。作品番号56は古玩を画題としたもの。郷土玩具を好み、玩具関係の本を収集した。

清水洋子

58. 英国・ヨークシャーの雪 リトグラフ版 7.7×11.0
59. 奥多摩の雪の黄昏 リトグラフ版 8.0×12.0
60. 桜草 リトグラフ版 9.4×6.9
61. 草花 リトグラフ版 9.6×7.1
62. 水仙 リトグラフ版 9.8×7.7
63. 霧の中のかもめ St.Ivesにて エッチング 12.0×7.5
64. 夏 リトグラフ版+エッチング 8.9×7.0

1942年東京都に生まれる。1966年武蔵野美術大学油絵科卒業。油絵と並行して織田一磨石版術研究所で学ぶ。敬愛するウィリアム・モリスゆかりの英国旅行費を貯めるためモリス書房の出版を開始、手作り詩画集を制作する。この本の読者で蔵書票蒐集家の坂本一敏氏の依頼により1979年初めて蔵書票を制作する。2000年以降神秘的な作風に移行するが、出品作品は明るく華やかいた花々や英国風景を特徴とした時代の作品である。

城景都

65. SEX LIBRIS 銅版 18.9×12.5

1948年愛知県に生まれる。中学時代の恩師で画家の近藤正治氏と再会後本格的に絵を描き始める。作品番号65にも見られる城作品の特徴、植物の葉脈からインスピレーションを受けた貫入風の罅割れをいれた作品は1969年から制作される。1974年版画家菅野陽からエッチング技法を学ぶ。1970年シェル美術展佳作、1972年イタリア・ジェノバ市芸術家展大賞受賞。

杉沢修

66. 少年 板目木版 10.7×7.9
67. 富士 板目木版 9.0×11.6

1953年静岡県に生まれる。1974年中央美術学院卒。若い頃から浮世絵版画の修行をした版画家である。作品番号66は、「EX.LIBRIS K.HARANO」と文言が型押しされている。

鈴木和美

68. 春蘭 板目木版 12.2×9.4
69. クロッカス 板目木版 12.3×7.9

蔵書票研究家。木版、銅版、芋版などで制作。

鈴木敏靖

70. 顔 板目木版 9.2×7.8

1937年静岡県に生まれる。1979年日本版画院展新人賞、1979年1980年サンシャイン版画版種別グランプリ展入選、1983年中華民国国際版画展入選、1993年第2回高知国際版画トリエンナーレ展入選、2001年第15回富嶽ピエンナーレ佳作、2004年あおもり版画トリエンナーレ青森銀行賞。

多賀新

71. 艶飾 銅版 11.0×7.9
72. レダ 銅版 16.1×11.0

1946年北海道に生まれる。1969年頃深沢幸雄氏の『銅版画のテクニック』を読み、独学で銅版画を習得。1973年蔵書票を作り始める。蔵書票制作に対しても一般版画と同様の熱意で取り組み、小さな画面に極めて精緻な図柄を表現する。ポルトガル、ミランダ刊行の『現代蔵書票作家・作品事典』第14巻に日本人として初めて作品を発表し、日本だけでなく、ヨーロッパの蔵書票コレクターの間でも知名度が高い。

高橋輝雄

73. 旅 板目木版 8.9×6.6
74. 三人の女 板目木版 7.3×6.3
75. 対月長夜嘯 板目木版 9.3×8.1
76. 寂 板目木版 7.2×7.0
77. 憑斗墨 板目木版 8.4×8.7
78. 香燭 板目木版 8.4×8.3
79. 美 板目木版 7.0×6.5
80. 椅子 板目木版 7.0×9.9

1913年愛知県に生まれる。父親が画家で、幼少期から彫刻刀とバレンで遊ぶ。若い頃から良寛に心酔し、愛知商業卒業後、高野山で修行する。その後京都独立美術研究所で須田國太郎氏にデッサンを学び、京都仏教専門学校でも学んだ。大津の浄土宗帰命寺の住職をする傍ら自刻自摺の詩集を制作。これが契機となり蒐集家坂本一敏氏の勧めで1977年に蔵書票制作を始める。作品番号78は良寛の言葉が主題となっている。

竹中健治

81. 不動明王 板目木版 11.7×9.1
82-1. 仏像 ゴム版 10.9×6.2
82-2. 仏像 ゴム版 10.9×6.2

多留廣

83. せせらぎに浮び流れる笹舟 板目木版 9.0×6.5

1930年兵庫県に生まれる。関西学院大学を経て、

1951年より染色に従事する。その傍ら木版画制作に励み、1989年には吾八書房より限定60部の『多留廣木版書票集』を発表する。作品番号83はこの蔵書票集に収録される。

対比地光子

84. 豹と女性 エッチング+アクアチント 15.0×11.5

東京都に生まれる。立石鐵臣氏に博物細密画を習った後、東京版画研究所会員となり、蒲池清爾氏から現代の蔵書票について教わる。「大人の為のファンタジーを作る事」が蔵書票制作のテーマと語る対比地の作品は美しい。制作開始当初思いつくままに作った2点の蔵書票は、中野紅画廊の細井氏の紹介ですぐに票主が決まった。熱心なファンの多い作家である。作品番号204は原野氏編の『原野メモ日本蔵書票書目』(2000)の表紙を飾り、お気に入りの書票のようだ。

塚越源七

85. 殺人事件 孔版 11.7×8.9
86. ランプと書物 孔版 9.0×5.6
87. 中国郷土玩具 虎 孔版 10.5×7.8

1922年栃木県に生まれる。1940年軍属として孔版印刷を始める。1965年若山八十氏氏に師事し、孔版画を習得。1980年日本美術協会賞受賞。

敦沢紀恵子

88. おだまき 板目木版 10.4×8.6
89. 獅子頭 板目木版 9.3×8.7

1942年北海道に生まれる。1965年女子美術大学卒業。短い会社勤めの後、中学や高校の美術講師をしながら徳力富吉郎氏に木版画、佐藤武雄氏に銅版画を学び、次第に木版画に専念する。蔵書票の制作を始めたのは、日本書票協会を主宰していた志茂太郎氏の勧めがあったことによる。蔵書票第1作は1976年日本書票協会「書票暦」に収録されている。

徳谷泰

90. 顔 孔版 9.8×6.8

徳力富吉郎

91. 原野藏書 板目木版 8.8×10.2

1902年京都府に生まれる。土田麦僊氏に師事し、日本画を学ぶ。国展にて平塚運一氏、川上澄生氏、川西英氏等の版画を見たことにより版画の道を志し、平塚氏の版画講習会で木版画を学ぶ。棟方志功氏や畦地梅太郎氏等と同人誌『版』を出版し、1931年には雑誌『大衆版画』を刊行。1928年樗牛賞、1929年国展国画賞、1978年勲四等瑞宝章、1990年第4回志茂賞受賞。

豊泉朝子

92. ゴールデンウィーク リトグラフ版 16.1×13.1
93. 花のある風景 リトグラフ版 20.0×14.0

1961年東京都に生まれる。1986年多摩美術大学大学院修士課程修了。版画、絵画、書、イラスト、デザイン等様々な分野で活躍する。1983年女子美術大学卒業制作優秀作品賞、1984年全国大学版画展買い上げ保存賞、1988年期待の新人作家大賞展大賞、日本具象版画展十美賞受賞。

原美明

94. 瓢箪 シルクスクリーン 11.7×6.2
95. 地球儀 シルクスクリーン 6.8×8.0

1948年栃木県に生まれる。中学生時代に謄写版に興味を持ち、21歳でシルクスクリン技法を習得。原が蔵書票を初めて制作したのは1979年で、版画の習練の一貫としてであった。蔵書票の素材には紙の他、布、プラスチック、経木、特殊インクも使用し、斬新な蔵書票を制作している。1988年フランス蔵書票公募展入賞、1991年アメリカ蔵書票協会誌“Bookplates in the News”に巻頭紹介される。

伴颯

- 96-1. 白壁の酒蔵 板目木版 10.0×8.1
96-2. 白壁の酒蔵 板目木版 10.0×8.1

1934年神奈川県に生まれる。1964年野口昂明氏に師事、1969年中村正義氏に師事して日本画を学ぶ。細井富貴子氏の依頼で初めて木版画蔵書票を作る。1978年東京展、創展に出品、評論家賞を受賞。1979年東京展賞受賞。

稗田米司

97. ヌード 彫紙 11.7×8.0

彫紙作家。稗田が蔵書票を作るようになったのは、平尾栄美氏に進言されて千社札を作ったことがきっかけであった。彫紙で蔵書票を制作することについて、「シルクスクリンやリトグラフを利用すれば速く数も多く制作出来る訳だが、やはり紙を切らなくては本来の彫紙作品はない訳で、手間隙掛けて表現するから珍重されるのである。」と語っている。

樋田直人

98. まだらな紐 篆刻 12.3×8.4
98-a1. まだらな紐 印 6.0×4.0×3.7
98-a2. まだらな紐 印 6.0×4.0×3.7

1926年北海道に生まれる。工学博士で、劇場ホール、南極建築の設計で知られる建築家でもある。その一方で、篆刻蔵書票の創始者であり、創作篆刻家としても活躍する。日本創作篆刻協会理事長。蔵書票研究も盛んに行い、蔵書票関連の著作も多い。日本書票協会顧問も勤めた。

平方亮三

99. 鳥 板目木版 10.7×12.2
100. らんぷ 板目木版 12.0×8.0
101. 旧函館博物館 板目木版 10.5×12.3

1941年長崎県に生まれる。函館在住で、函館の古い建物を主題とした『書票はこだての古い建物』を刊行。また、こうした建造物の保存、啓蒙を願って私刊画集『はこだての古い建物』も出版する。作品番号101は旧函館博物館を主題としたもの。2008年第58回板院展佐藤米次郎賞受賞。

平塚昭夫

102. ミズキとキビタキ 合羽版 10.4×7.5
103. 福助 合羽版 7.0×7.0
104. ちごゆり 合羽版 10.0×10.0
105. 加比丹 合羽版 13.5×7.0
106. 歌舞伎絵 合羽版 15.9×10.5
107. 額の中の裸婦 合羽版 10.5×11.0
107-a. 額の中の裸婦 下図 14.7×10.0

1947年北海道に生まれる。中学生の頃絵を描くことに目覚め、油彩、水彩、日本画、合羽版、孔版、製本等を独学。1980年勤めをやめて絵描きとなる。1987年上田福生氏が合羽版を見出し、合羽版蔵書票の制作を始める。以後、多くの蔵書票を手掛ける。シンプルな技法ながら、現在では版数を多くし、多様な表現が可能となった合羽版が世界に広がることを平塚は願っている。2004年台日蔵書票交流展特選。

舟橋菊男

108. 顔 シルクスクリーン 8.5×6.0

1942年東京都に生まれる。シルクスクリン版画家として活躍。本の装丁なども手掛ける。1976年第25回日本板画院新人賞受賞。作品番号108は、天地を逆にして別の図柄が楽しめるようになっている。

フラバティー

- 109-1. 裸婦 銅版 14.6×10.3
109-2. 裸婦 銅版 14.6×10.3
109-3. 裸婦 銅版 14.6×10.3

Pavel Hlavaty. 1943年チェコ共和国東部モラバ地方の町Albrechticeに生まれる。画家、版画家。高等工芸学校で美術を教えていたが、1977年より版画家として自立。1000点ほどの蔵書票をデザインしている。1980年代に2度来日し、東京と大阪で個展を開く。

古沢岩美

110. 裸婦 エッチング 11.1×15.8
111. 裸婦 エッチング 12.5×16.2

1912年佐賀県に生まれる。1928年岡田三郎助氏の邸宅に寄宿し、本郷絵画研究所に通う。リトグラフ、エッチング、銅版画集など版画作品を多数制作。いろいろなポーズする裸婦の図柄は、エッチングで制作される。古沢はこの内の数枚に手彩色を加えて票主に渡す。今回は出品しないが、作品番号110、111も彩色された蔵書票が1枚ずつ收藏されている。1940年朝日新聞挿画コンクール1等受賞。

保賀金造

112. 十二支 戌 篆刻 6.6×5.1

滋賀県に在住の篆刻作家。

前田日臣

113. 豆地藏 篆刻 6.0×4.3

篆刻作家。

松林モトキ

114. 武蔵山 板目木版 9.3×7.4

1948年長野県に生まれる。絵を志し、東京の専門学校を経てイラストレーター針すなお氏のアシスタントに。70年代は芸能や時事の一コママンガを新聞や雑誌に連載した。1980年より、大相撲錦絵を手がける。現代浮世絵に独自の世界を展開。1993年、「松林モトキ絵番付」を発表する。以後毎場所製作。1994年、『大相撲歴代横綱書票集』を吾八書房より刊行する。1997年、「歴代横綱土俵入りの図」完成。

松原邦光

115. 裸婦 型染 10.4×7.1

116. 裸婦と花 型染 14.8×10.4

117. 裸婦 型染 11.6×9.2

1950年京都府に生まれる。友禅染の絵師を経て、型染版画の制作をはじめたのは1974年頃で、1982年に庄司浅水氏の書票をつくったのが書票第一作である。題材には、実在しない世界、神話の登場人物たち、女神、森や泉に住む妖精、獣たちが織りなす白昼夢、淡い光の翳りが漂わす遠い日の郷愁がほのかな女体の香りとともに感じられる「ランプと女体」をテーマとしたエロス幻想的な構図のものなどがある。装飾的で、幾重にも重ねたぼかしが特徴である。

松原秀子

118. 魚つり 型染 9.2×7.0

119. 童 型染 9.4×8.3

120. 三人の童 型染 7.7×11.6

1952年兵庫県に生まれる。型染の技法で蔵書票を作り、主に童や伝統芸能を題材とする。まれに静止したポーズもあるが多くは自然のなかではねまわっている子どもの姿をとらえている。松原の「童」はあきらかに日本の童話に出てきそうな少年少女であるが、いわゆる民芸調には表現されていない。はるかに華やかな線と色が用いられており、夫、松原邦光氏の冷静な青系統の色に比べて、朱色がよく使われる。

三井永一

121. 湯上り 板目木版 11.6×8.9

1920年山形県に生まれる。春陽会洋画研究所に学び木村莊八氏、中川一政氏、岡鹿之助氏に師事。1953年春陽会絵画部会員。1964年春陽会版画部会

員。鎌倉近代美術館「現代世界版画」展、毎日新聞「日本国際ビエンナーレ」展に出品、2002年銀座ギャラリー・一枚の絵で油絵・版画の個展。1971年講談社出版文化賞(挿絵部門)。浮世絵風の蔵書票を制作する。

宮浦真之助

122. らんぷ 板目木版 12.3×9.6

123. ざくろ 板目木版 9.1×10.1

松本に在住した版画家。

宮下登喜雄

124. 裸婦と魚 銅版 19.4×13.3

125. 饗宴にエロス 銅版 15.9×13.2

126. 饗宴にエロス 銅版 13.6×13.2

127. 饗宴にエロス 銅版 13.3×13.2

128. 饗宴にエロス 銅版 13.5×11.2

129. 旅の絵より 銅版 15.1×11.0

130. 裸婦 銅版 19.5×13.2

131. 旅の絵より 銅版 18.7×12.7

132. 旅の絵より 銅版 13.1×12.8

133. 旅の絵より 銅版 13.6×12.7

134. 旅の絵より 銅版 16.0×13.1

135. 本とみみずく エッチング+アクアチント
14.9×11.0

136. 旅の絵より 銅版 12.2×12.4

137. 裸婦 板目木版 12.5×10.4

138. 人魚 銅版 19.6×13.3

139. 裸婦と海 銅版 11.2×15.8

140. 公園 銅版 16.0×11.7

141. 花 銅版 19.6×13.2

142. 雨 銅版 15.9×11.7

143. 立大バッジ 銅版 13.5×12.6

144. 枯葉 銅版 14.7×10.6

145. 宇宙 銅版 19.7×13.2

146. 雪 銅版 15.8×11.8

147. ニューヨーク風景 銅版 15.9×11.8

148. テームズ川 銅版 13.2×19.4

149. 裏通り 銅版 19.5×13.3

150. 街角 銅版 19.5×13.3

1930年東京都に生まれる。平塚運一氏に木版の指導を受けた後、関野準一郎氏に銅版技法を教わり、駒井哲郎氏らと日本銅版画家協会の設立に参加した。1964年、独創的技法、水性絵具による木版と銅版の併用作で東京国際版画ビエンナーレ展で文部大臣賞を受賞する。以来、サンパウロ、ルガノ、リブリアナ、イタリア、イギリス等の国際版画ビエンナーレ展に招待出品。一方、1957年頃より書票を600点以上制作している。

宮本匡四郎

151. 裸婦 板目木版 9.0×14.6

152-1. 裸婦 板目木版 10.8×6.9

152-2. 裸婦 板目木版 10.8×6.9

152-3. 裸婦 板目木版 10.8×6.9

152-4. 裸婦 板目木版 10.8×6.9

152-5. 裸婦 板目木版 10.8×6.9

152-6. 裸婦 板目木版 10.8×6.9

152-7. 裸婦 板目木版 10.8×6.9

153-1. 裸婦乱舞 板目木版 7.4×9.2

- 153-2. 裸婦乱舞 板目木版 7.4×9.2
 153-3. 裸婦乱舞 板目木版 7.4×9.2
 153-4. 裸婦乱舞 板目木版 7.4×9.2
 153-5. 裸婦乱舞 板目木版 7.4×9.2
 153-6. 裸婦乱舞 板目木版 7.4×9.2

1915年台湾に生まれる。豆本、蔵書票、版画挿絵等の制作を経て1960年中央公論画廊にて第1回個展を開く。その個展には、棟方志功氏が「たしかに作品が人間であるという事を、大きく教えてくれた作品」と賛辞を寄せている。1975年には、フランスのマキシム・フーコー氏が「彼の官能的なコンポジションは人間的で繊細な世界を醸す」と賞賛した個展をパリで開いている。宮本の作品にはいつも人がいて、その人の「悩み」や「喜び」の感情が伝わってくる、独特の印象がある。

三輪映子

154. 顔 板目木版 11.0×11.0
 155. 倉 板目木版 10.7×7.0
 156. コラージュ 板目木版、布とトコロの花を添付するコラージュ 11.1×9.8

1937年青森県に生まれる。早稲田大学文学部美術史学科卒業。作品番号154の蔵(くら)の絵は、漢字で蔵(ゾウ)と書く代わりに、「原野賢吉蔵」と読ませる。作品番号156は、数十年を経た布とトコロの花を用いた木版画とのコラージュであり、原野氏の提案によるものである。

村上戸久

157. 鯉 型染 7.9×9.5

1923年茨城県に生まれる。戦後人間国宝芹沢銈介氏に入門した亡夫元彦氏のもとで型染の制作に従う。その間銀座・松屋美術部が主催する元彦氏主宰のえぼし会展に出品し、1986年夫亡き後もこれを継続した。1983年、村上戸久第1回個展を日本橋・田中八重洲画廊にて開催。1988年、第2回個展。1989年～1996年にかけて、『村上戸久書票集(自刻・自摺)』第1刊～第5刊を吾八書房より刊行。

村上元彦

158. 女王 型染 10.7×7.2

1919年東京都に生まれる。川上澄生氏の著作『あげれす いろは』の人間的なユニーク美を含んだ小間絵に魅了され、1955年芹沢銈介氏の門に入り、型染手法を身につける。1960年独立して、型染教室「絵星会」を主宰。川上版画の主なモチーフは、南蛮伝来の日本近世ルネサンスの文化の時代と、明治期の文明開化の魅力であり、村上はこれらのモチーフを染色工芸の文様の世界に制作の根幹として継承展開させてきた。

山上昌弘

159. コゲラ 木口木版 11.7×10.6

1934年東京都に生まれる。1946年蔵前工業に入学。在学中に都美術館の講習会でデッサン、クロッキーを学ぶ。1978年に独学で板目木版を始める。1986年、

木版画が雑誌「アトリエ」のコンペに入選。栗田政裕氏に師事、木口木版に取り組む。1994年、ミラノの書票コンペに入選。その後各国のコンペに入選。1999年、ドリルによる点描版画を制作している。取出美術研究所研究員。

山高登

160. 川を流れる笹舟 板目木版 6.6×10.2

1926年東京に生まれる。1960年頃より出版編集の傍ら木版画をつくる。川上澄生氏、初山滋氏、武井武雄氏らの影響によるものである。1978年出版社を退職し、風景木版画制作と出版美術に専念する。書籍の造本装釘が多い。文学的香気をもつノスタルジックな作風である。

山本信之

161. (無題) コンピュータ・グラフィックス 10.7×8.0

1931年生まれ。20世紀後半に開発された最新の技法である、CG(コンピュータ・グラフィックス)を活用して書票作りを楽しんでいる。

横田稔

162. ぜんまい 銅版 9.0×6.8

1942年長崎県に生まれる。1972年から高知市の郊外にアトリエを構え、銅版画のプレス機や紙の断裁機、オフセットの印刷機までもとり揃え、たったひとりで銅版画やリトグラフ入りの本を制作、出版し続けている版画家である。1980年、テーマを「サーカス」と決めて、蔵書票制作を始めたのをきっかけに、その後も、「まざあぐうす」「銀河鉄道の夜」などのテーマで蔵書票を作り続け、蔵書票を並べるだけでなく、挿絵をふんだんに入れた、絵本仕立ての蔵書票集としても刊行している。

吉本政幸

163. 鰐 板目木版 11.7×9.5

1926年広島県に生まれる。文化書道師範。趣味で木版画の年賀状等を制作していたが、日本版画会に入会し本格的に木版画制作を開始する。書票の世界に魅せられ、数多くの作品を制作。そのユーモアとあたたかみのある作品は、広島市の自宅アトリエ『半鷲洞』(はんがどう)で生まれ続けている。1998年ブロンズ賞(北京世界小版画と蔵書票展)受賞。

II部 蝶の蔵書票

井上勝江

164. 撫子と蝶 板目木版 12.5×12.1

大内香峰

165. 蝶 木口木版 5.6×5.6
 166. 蝶と書斎 木口木版 9.7×8.8

167. (無題) 肉筆 9.8×13.3

大沢秀直

168. FAIRY 板目木版 15.0×14.0

1959年北海道に生まれる。1986年第4回山口源新人賞受賞。

大本靖

169. 蝶 板目木版 11.0×9.0

1926年北海道に生まれる。1948年阿佐ヶ谷美術研究所に通う。1959年日本版画協会展会友賞、1960年モダンアート協会展プランシェ賞、1984年札幌市民芸術賞受賞。

金守世士夫

170. 湖山・蝶 板目木版 8.1×6.5

171. 湖山と蝶 板目木版 10.8×8.4

1922年富山県に生まれる。帝国美術専門学校卒業。1948年棟方志功氏に師事、共に版画誌『越中版画』(『日本版画』と改題)を1952年まで刊行。版画と水墨画の指導で渡ったインドネシアやマレーシアで蝶を観察し、限定版画集『湖山と蝶』を制作。出品作品は同画題の書票である。1992年日本版画会への貢献を称え、勲五等瑞宝章を授与される。1994年日本書票協会第4回志茂賞受賞。

萱慶子

172. つるばらと蝶 銅版 14.2×10.7

173. 花に舞う蝶 銅版 14.2×10.7

174. 蝶と撫子 銅版 14.1×10.7

175. 女と蝶 エッチング 14.0×10.8

1942年愛媛県に生まれる。桑沢デザイン研究所卒業。1977年春陽展新人賞、1991年イタリア国際全日本版画展TIE賞、1992年ギリシア国際日本版画展TIE賞受賞。

川田喜一郎

176. 花に遊ぶ 孔版 11.5×10.3

177. 乱舞 孔版 10.8×12.8

神崎温順

178. 星宿 型染 8.4×9.0

179. 山頭火・四季の蝶 春 型染 9.9×7.5

180. 山頭火・四季の蝶 夏 型染 9.9×7.5

181. 山頭火・四季の蝶 秋 型染 9.9×7.5

182. 山頭火・四季の蝶 冬 型染 9.9×7.5

木の瀬博美

183. 蝶 板目木版 13.4×9.8

1990年頃、版画家大本靖氏の勧めで本格的に蔵書票制作を始める。「心象風景を通して、内在する宇宙を追究していきたい」と語り、人間の内面に焦点を当てたSF映

画を生み出したアンドレイ・タルコフスキー監督の作品に影響を受けているという。闇、霧、雨、水、光、火の映像美で表現された宇宙は、木版画には珍しい斬新な構図と鮮やかな色彩の抽象作品として新たに生み出される。

桐村茜

184. 親指姫 銅版 10.0×12.7

1952年京都府に生まれる。1974年武蔵野美術大学卒業。1992年渡仏、パリシテデザールに一年間滞在。2001年パリ郊外に仏政府アトリエを得る。2006年文化庁海外特別研修員としてニューヨーク滞在。1991年1992年春陽会奨励賞、1993年国際書票コンクール(チェコ)二席、1995年第11回プリントインターナショナルMaximo Ramos(スペイン)優秀賞受賞。

栗田政裕

185. 蝶とチューリップ 木口木版 14.8×13.4

186. Brussels 木口木版 16.7×12.6

栗田毬子

187. 姉弟 銅版 15.3×13.6

1950年東京都に生まれる。銅版画家。1970年代に東京版画研究所にて銅版画を学ぶ。日動画廊グランプリ展入選。東京セントラル美術館版画大賞展入選。

後藤秀明

188. 樹林 リトグラフ版 13.6×16.4

1953年福岡県に生まれる。金沢美術工芸大学卒業。小島直記氏の著作『人材水脈日本近代化の主役と裏方』(1983)の装丁を手掛ける。版画グランプリ展賞候補一席、1985年セントラル版画大賞展。

酒井秀夫

189. 蝶と妖精 肉筆 6.9×6.9

1954年『ゑぞ・まめほん 第7号 蝦夷豆本』口絵、1954年『肉筆画集 郷玩十二種』、1960年『郷玩囃子』、1969年『名作古玩十二撰 酒井秀夫肉筆画文集』他、一貫して肉筆画を手掛けている。限定版ながら刊行物も多数ある。作品番号189は1981年に原野氏の依頼で造本も酒井が手掛けた限定1部の肉筆蔵書票集『書票裸婦画集』に収録される。

佐藤米次郎

190. 牡丹と蝶に祈る 板目木版 11.8×9.3

清水洋子

191. はなびらおとめ “蝶のドレス” リトグラフ版 8.7×6.9

下條裕子

192. カタクリ エッチング+アクアチント 11.8×9.6

1959年岐阜県に生まれる。デザイン事務所勤務後独立し、フリーとして新聞の挿絵やイラストを手掛ける。須田敏夫氏作品への憧れから銅版画を始め、須田氏に蔵書票制作の指導を受ける。蔵書票の小さな寸法に魅力を感じると言い、「沢山コレクションして、ひょいとバッグやポケットに忍ばせて、ここぞという時に取り出して自慢できるなんて、こんな楽しい性質の絵画など他にはない」と書票の巨大化が望まれないよう願っている。

杉山元次

193. ステンドグラス 板目木版 8.2×6.0

1925年静岡県に生まれる。サラリーマンをする傍ら、1975年より船坂芳助氏に師事。1979年第31回全日本年賀状版画コンクール佳作、1982年第2回住友ビル・ミニ版画コンクール佳作、1987年～2000年CWAJ版画展入選。1984年神奈川県民ギャラリーに作品収蔵される。

鈴木和美

194. ルピナスと蝶 銅版 15.7×12.2

鈴木紀子

195. 蝶 孔版 10.5×8.8

型染作家。

多賀新

- 196. 蝶のスカイダイブ 銅版 15.4×11.8
- 197. 蝶 銅版 15.0×11.2
- 198. 蝶 銅版 17.0×11.8
- 199. 蝶 銅版 15.4×12.2
- 200. 蝶 銅版 12.0×11.7
- 201. 蝶 銅版 15.0×10.3
- 202. 裸婦 エッチング 15.1×12.3

対比地光子

- 203. 蝶と女性 エッチング 15.0×11.5
- 204. 花の精 銅版 10.6×7.6
- 205. 蝶と妖精 エッチング 15.1×11.6

塚越源七

- 206. 蝶三羽 孔版 9.0×7.5
- 207. 蝶 孔版 4.2×3.5
- 208. 菜の花と蝶 孔版 7.6×10.6
- 209. 札の華 孔版 9.0×11.2
- 210. 蝶群舞 孔版 11.2×9.0
- 211. 蝶 孔版 13.2×9.6
- 212. ヨーロッパの蝶 孔版 13.7×9.8
- 213. たわむれ 孔版 9.5×8.0

内藤八千代

- 214. 白鬚橋と蝶 エッチング+アクアチント 13.0×15.4
- 215. 蝶とテリア 銅版 15.1×11.6
- 216. 蝶 エッチング+アクアチント 16.3×12.5

1942年東京都に生まれる。1964年日本大学芸術学部卒業。幼少期から画家になることを目指し、大学では油彩画を学ぶ。1969年日本美術家連盟の版画工房に通い、銅版画を始める。そこで銅版画家山本六三氏から蔵書票について教わる。養清堂画廊での作品展示を契機に蒐集家長谷川勝三郎氏から蔵書票制作を依頼され、以降、蔵書票制作に専念する。

中野章

- 217. 風に舞う蝶 板目木版 6.8×8.5
- 218. コマクサと蝶 板目木版 7.3×7.3

1943年北海道に生まれる。1966年に交通事故にあう。1969年入院中に徳力富吉郎氏の『版画入門』を読み、版画制作を始める。その後10年間はベッド上で寝ながらの制作が続く。以後、車椅子生活を送りながら、版画制作を続け、2001年には有珠山噴火被害者激励カードを制作。

中野洋一

- 219. 海辺の蝶 木版 11.5×10.4
- 220. 夕暮れ 木版 11.7×10.0

1944年鹿児島県に生まれる。中学まで鹿児島で過ごし、1967年野間伝治氏より銅版画を、1970年由木礼氏より木版画を学ぶ。作品のテーマは幼少期を過ごした鹿児島県甑島の風景で、作品番号219、220は、いずれも甑島を描いたものである。

萩原英雄

- 221. 蝶舞う 板目木版 10.5×8.6

1913年山梨県に生まれる。耳野卯三郎氏に師事。1933年東京美術学校油絵科に入学し、木版画や銅版画にも接する。卒業後、浮世絵複製の高見沢木版に就職し、版画への理解を深める。1953年肺結核に倒れ、療養中の木版年賀状制作を契機に木版画を始める。木版凹版や両面摺りの新技法を開発し、近代木版画の祖と評される。1960年以降数々の賞を受賞。1979年から1990年まで日本版画協会理事長を務める。

原美明

- 222. 胡蝶の舞 シルクスクリーン 10.5×9.6
- 223. 曼珠沙華と蝶 孔版 5.5×5.0

原島典子

- 224. スノードロップの妖精 メゾチント 18.0×15.3
- 225. 蝶と女 彫刻銅版+メゾチント 15.0×11.7
- 226. オフェリア 銅版 17.8×19.7
- 227. わすれなぐさ 銅版 19.8×18.2
- 228. 月の子供2 銅版 18.7×14.5
- 229. 胡蝶 銅版 19.7×17.7
- 230. ひな人形 銅版 20.0×14.7

1939年大連に生まれる。アルフォンス・井上氏と坂東壮一氏の蔵書票が好きだという。両氏の作品に負けないほど原島の作り出す世界は幻想的でロマンチックなものが多い。主にメゾチントの技法で銅版画を制作。

メゾチントはフランス語でマニエール・ノアール(黒の手法)ともいわれ、摺り上がりにできるピロードのような黒地と白く浮き上がる部分の対比が原島の作品をより幻想的に見せる。

坂東壮一

- 231. 蝶の仮面 銅版 20.0×13.8
- 232. 蝶 銅版 19.8×13.8
- 233. 花と裸婦と蝶 エッチング 19.7×11.6
- 233-a. 花と裸婦と蝶 エッチング原版 12.2×6.7

1937年香川県に生まれる。15、6歳の頃、1910年代のドイツの美術本『クンスト』で蔵書票を知る。その後、本格的に版画に取り組み、版画集や詩画集の仕事をするなかで1977年初めて蔵書票を作る。坂東はマニエリスムに関心をもっており、長い手足と表情を見せない人物の不安定さなど、出品作品にもその影響が見られる。1963年日本版画協会賞、1965年春陽会賞、1966年日本版画協会山本鼎賞。

菱和子

- 234. 花と蝶 板目木版 10.6×16.0

北海道に在住した版画家。

平塚昭夫

- 235. エゾミドリシジミ 合羽版 10.0×8.0
- 236. 揚羽蝶 合羽版 15.8×8.0

保賀金造

- 237. 市松 篆刻 7.4×5.1
- 237-a1. 市松 印 3.0×3.0×9.8
- 237-a2. 市松 印 3.0×3.0×9.8
- 238. 蝶群舞 篆刻 7.5×5.1
- 239. 蝶 篆刻 7.5×5.0

本間要一郎

- 240. 草花と蝶—そばちょこシリーズ— 板目木版 10.4×8.8

1924年新潟県に生まれる。版画家にして経済学者。版画は宮下登喜雄氏に師事。個展を開くなど、版画は趣味からプロの領域へ。

松原邦光

- 241. 蝶 型染 14.1×11.0

宮下登喜雄

- 242. 聖橋 銅版 15.8×11.6

村上戸久

- 243. 蝶 型染 9.6×9.5
- 244. 蝶 型染 9.2×8.1
- 245. 蝶 型染 10.3×8.6
- 246. 「蝶の羽幾度越る塀のやね」芭蕉句 型染

- 8.7×10.7
- 247. 日本昔話 型染 11.7×12.6

山腰郁哉

- 248. 湖畔の蝶 板目木版 8.9×8.9
- 249. 花に蝶 板目木版 8.8×6.5

山高登

- 250. ランプと蝶 板目木版 8.0×6.5

吉田正樹

- 251. 蝶 板目木版 9.8×10.3

1947年岐阜県に生まれる。2008年長久手町ギャラリー『象家』にて個展。草木染手漉き和紙を用いた蔵書票は、派手さは無いが素朴な味わいがあり、このような作風が自分らしいと述べるモチーフは花や蝶を始め、祭、郷土玩具、童話と票主の希望も取り入れた多様なものになっている。版画の文字は、独特の文字の線をしており、彫刻刀の切れ味を生かして生み出された書体は吉田作品の特徴である。

若月公平

- 252. 蝶 銅版 18.1×16.0
- 253. 蝶 銅版 18.0×16.0

1956年埼玉県に生まれる。武蔵野美術大学で版画を専攻。技法は、主にエッチングとアクアチントの併用で、ルーペを使いながら鋭いニードルで描画する。2000年記念新作蔵書票コンクール(2000年)で作家賞を受賞。受賞作の票主は、「若月さんの作品は、1点1点を延々と刻み続けた細微な銅版画であり、その色使いの素晴らしさにはいつも感激しています。」と賛辞を述べている。

涌田利之

- 254. 裸婦と蝶 木口木版 15.3×14.1

1955年北海道に生まれる。1979年武蔵野美術大学油絵学科卒業。在学中より銅版画のエンブレイピングを始める。1986年木口木版画を始める。蔵書票を作り始めたのは、当時中野紅画廊をしていた細井武雄氏から誘われたのがきっかけである。

渡部正彌

- 255. 浅間山とベニシジミ 板目木版 8.7×6.1

1931年山形県に生まれる。中央美術研究所に学ぶ。1965年より木版画を制作。山と花の版画をつくるようになった後、山歩きに持参している写生帳から、一部をトリミングや縮小したりして、やっと自身の気持ちに合ったモチーフの書票を作るようになったと述べており、板目木版では細かなものや繊細な表現が難しいので、下絵の段階で絵を単純化して版数を少なくするための頭脳作業が大切な手順だと考えている。

謝辞

本展覧会を開催するにあたり、日本書票協会会長・共立女子短期大学名誉教授内田市五郎氏、聖和大学図書館司書西野裕子氏(2008年度展覧会事業プロジェクトチーム・アドバイザー)、日本書票協会理事山本信之氏にさまざまな面でご教示を頂戴しました。また、版画家柳田基氏にも多大なご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

原野コレクション I

本に貼られた版画 —蔵書票の美—

2008年12月1日発行

編集・発行：関西学院大学博物館開設準備室
〒662-8501
西宮市上ヶ原一番町1-155

印刷・製本：日本写真印刷株式会社

©KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
MUSEUM PLANNING OFFICE 2008